

レジデントカリキュラム ** 血液内科 **

概 要

血液内科学の進歩は著しいものがある。Imanitib, Rituximab などの分子標的薬の登場および補助療法が進歩により、今までの常識を打ち破る良好な治療成績が発表されている。また、免疫抑制剤の進歩と移植前処置の改善、臍帯血バンクの充実により、いまや全身状態さえよければほぼ全員に同種造血幹細胞移植が可能な状況となった。血液疾患の診断学においては分子生物学の臨床応用により更に細分化の一途をたどっている。これら日々変遷する医学情報に翻弄されることなく、患者さんにとって何が最も有益な治療法であるかを判断し立案実行する能力が求められる。さらに、血液疾患の治療経過中に起こる様々な感染症、臓器障害に対応し、全身管理のできる能力を養うことを目標としている。当院では完全無菌室 2 床、準無菌室 6 床を備えており、若手医師・レジデントの参画により、積極的な治療を行い、造血幹細胞移植症例の増加をめざしている。また、Japan Adult Leukemia Study Group (JALSG) や関西地区約 50 施設が参加する大阪リンパ腫研究会(OLSG)に参加し、白血病や悪性リンパ腫に対する多施設共同臨床試験に積極的に取り組んでいる。

達成目標

以下の項目を達成できることを目指す。

なお、一般的内科知識は初年度研修にて達成されているものとする。

- 1) 代表的疾患の診断、治療を独力で行えること
 1. リンパ腫
 2. 急性白血病、慢性白血病、MDS
 3. 自己免疫性血液疾患
ITP、
再生不良性貧血
 4. 骨髄腫

- 2) 以下の特殊治療を指導を受けながら立案、実行できること
 - 通常量化学療法
 - 大量化学療法
 - 自家末梢血幹細胞移植
 - 同種骨髄移植
 - 同種末梢血幹細胞移植
 - 臍帯血移植

- 3) 高齢者血液疾患の管理
 1. QOL と治療効果のバランスを判断すること

- 4) 以下の検査の結果を解釈できること
 1. 染色体検査 (FISH、PCR 等の分子生物学的検査を含む)
 2. 表面マーカー検査
 3. 病理診断標本

5) 手技など

- ・ 分子生物学的手法を含めた的確な検査の計画と結果の解釈
- ・ 通常化学療法、大量化学療法、自家末梢血幹細胞移植、同種骨髄移植、同種末梢血幹細胞移植、臍帯血移植の計画と実施
- ・ 高度の骨髄不全・免疫不全時の無菌室管理
- ・ 骨髄穿刺・腰椎穿刺・骨髄生検
- ・ 末梢血幹細胞、骨髄の採取・凍結・解凍及び移植
- ・ 臍帯血の解凍及び移植
- ・ 独力による CV カテーテルの挿入・管理

6) 情報管理、収集技術

1. インターネット上の pubmed 等を駆使し、目的とする文献を探し出せること。
2. 学会発表を通し、学術情報の伝達方法を学ぶこと。
3. 英文医学論文を読みこなせること。

7) 説明、指導、協力等の社会的能力

1. わかりやすい言葉を用いて患者、家族の動揺を呼ばずに重要事項を説明する能力
2. 患者、家族と信頼関係を築く能力。
3. 1 年目研修医に対する指導力
4. 病院システムを理解し、病院の医療資源を最大限に利用する能力
パラメディカルとの協力、指導をおこなえること。
医療経済的配慮を行えること
他科医師と円滑に相談、協力を行う調整能力を備えること

3 年間で経験する疾患、管理、検査など

- 1) 上記 1. にあげた疾患
- 2) 上記 6. にあげた手技
- 3) 目標症例数 (治療モード別)
 - 通常化学療法 年 30 例
 - 大量化学療法 年 5 例
 - 自家移植 3 - 5 例
 - 同種移植 3 - 5 例

病棟業務など

- 1) 入院患者は 7 名前後を受け持つ
- 2) 外来は初診週 1 回。専門外来は適宜調節
- 3) 一般内科当直の交代勤務に入り、月 1 - 2 回

研修方法、指導体制

- 1) 指導医のもとで主治医を担当する。
- 2) カンファレンスなど
 - 毎週水曜日病棟カンファレンス
 - 毎月 1 回 金曜日 医局カンファレンス、C P C

● I C T 講習・N S T 講習 適時

3) 学会発表など

● 適宜症例に応じて以下の学会に年 1 - 2 回発表する。

(1) 内科学会、内科地方会

(2) 血液学会、近畿血液学地方会

(3) 日本造血細胞移植学会

4) ローテーション

● 希望に応じて、施設外との交流研修を含め計画をくむ。